

# 江戸川ルネッサンス

国際コミュニケーション学科

Kazuo Yoshikawa

2007年8月25日

# ● 関東平野の形成と河川の移り変わり

— 川から見た地域の歴史 —

日時：平成19年8月25日

午後1時～5時

場所：足立区子ども家庭支援センターホール



# 「関東平野の形成—歴史から温暖化を考える」

葛飾区郷土と天文の博物館学芸員 谷口 榮

# 「利根川系河川の移り変わり」

武蔵野文化協会副会長 芦田 正次郎

# 「荒川の付け替えと放水路」

足立史談会会長 安藤 義雄

# 「現在の河川の状況」

(財)河川情報センター 森野 香織



\* 東京の下町とは？

— 東京都東部の低い土地に広がる地域

\* 東京低地とは？

— 武蔵野台地と下総台地の間で  
関東平野の最南端

— 行政的には中央、墨田、江東、足立、葛飾  
江戸川、台東、荒川、北区の低地部をいう

\* 多摩川低地とは？ 多摩川沿いの地域

\* 荒川低地とは？ 武蔵野台地と大宮台地に囲まれた  
荒川沿いの地域

# 縄文海進

- \* 今から1万2千年前から6千年前までの約6千年という長い時間をかけて地球の気候が温暖化に向かい、海岸線が関東地方の奥まで入り込んで奥東京湾を形成した。  
この頃には東京低地の地域は海原となっていた。
- \* 縄文海進がピークに達した6千年前には埼玉県川越や茨城県栗橋の川筋まで海水が侵入した。
- \* その後縄文時代中期以降温暖化現象は安定し、次第に気温が下がり、海水面が低下し始めた。

# 沖積化

- \* 縄文時代中期以降、徐々に気温が下がり、海水面が低下し始めた。
- \* それに伴い河川の上流から土砂が運ばれ海だったところを埋めていく沖積化が促された。
- \* この沖積化に大きな役割を果たしたのが利根川と荒川の二大河川である。
- \* 今から2000年前に東京低地が陸化。
- \* 人々が東京低地で生活環境が整い始めたのは弥生時代の終わりから古墳時代前期ごろである。

## <河川法>

○明治29年（治水）

大河川は国が管理

○昭和30年代（高度成長）

水利用の問題が顕在化

- ・急激な都市化
- ・電気、エネルギーの普及
- ・上下水、工業用水の需要の高まり

→ 河川法の改正

○昭和39年 河川法改正 “新河川法”

治水 & 利水

河川を1級、2級に分けて管理する。



環境の悪化 ・人口の増加 ・工業排水の増大

○平成9年 河川法の改正

・環境—治水—利水を考える。

時代背景を反映している。

○治水～首都を守る

・スーパー堤防

○水に親しむ

・親水公園

・ビオ トープ



## ●感想(印象に残った言葉、気になった事柄)

- 昔は川は人々が勝手に名前を付けて呼んでいた。  
地域に親しまれた名称をそれぞれが勝手につけていたとは驚きでした。
- 川は昔を忘れない  
河川は人工的に流れを変えても、自然の力(豪雨、台風)により、昔の流れを思い出す一昔の流れを知っておくことが災害から身を守る。
- 明治43年の大洪水ー関東大震災と2大災害  
豪雨、長雨により東京全体で27万家屋の浸水、被災者150万人  
これを教訓に大規模な荒川改修工事が計画され、放水路が建設された。